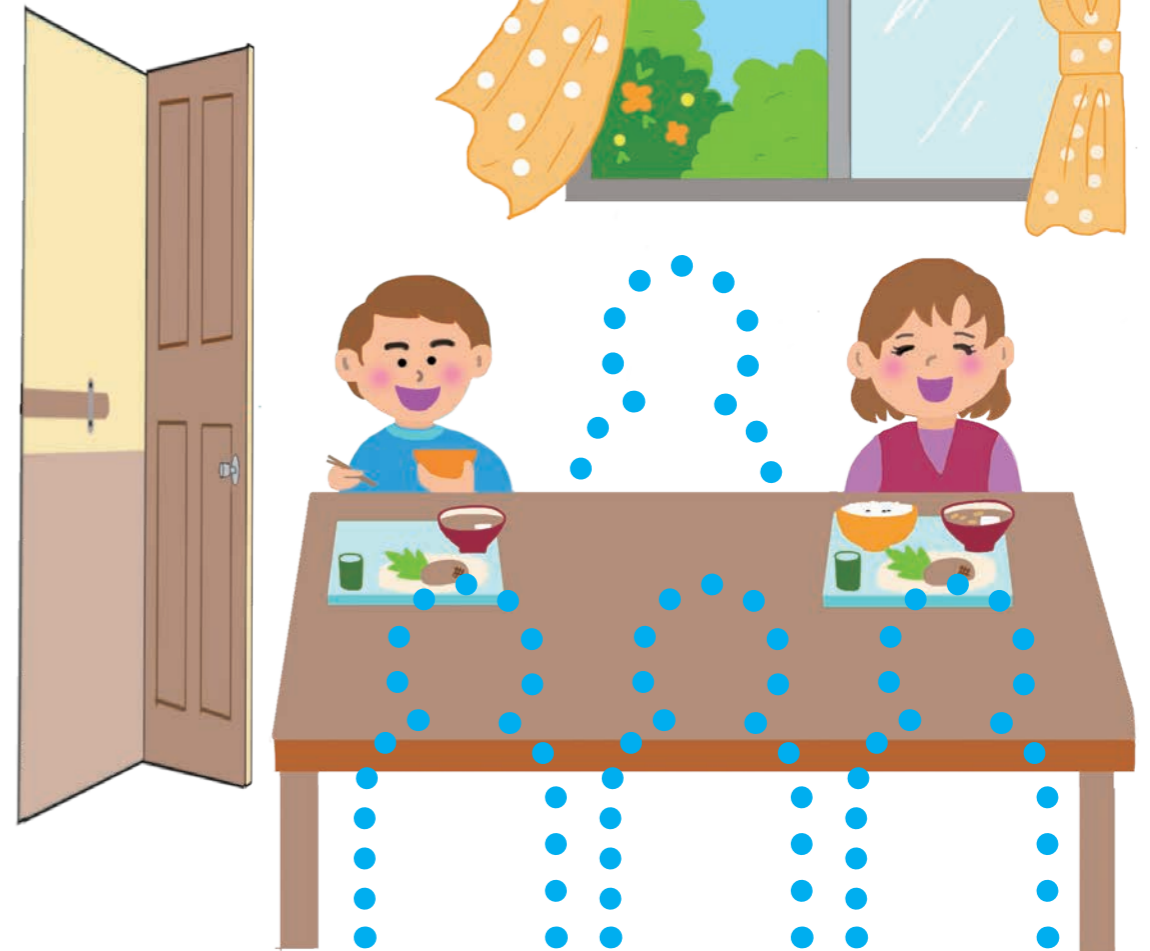




食事は密を避け 時間をずらして 少人数で!!

室温に注意して
常に空気を
入れかえましょう

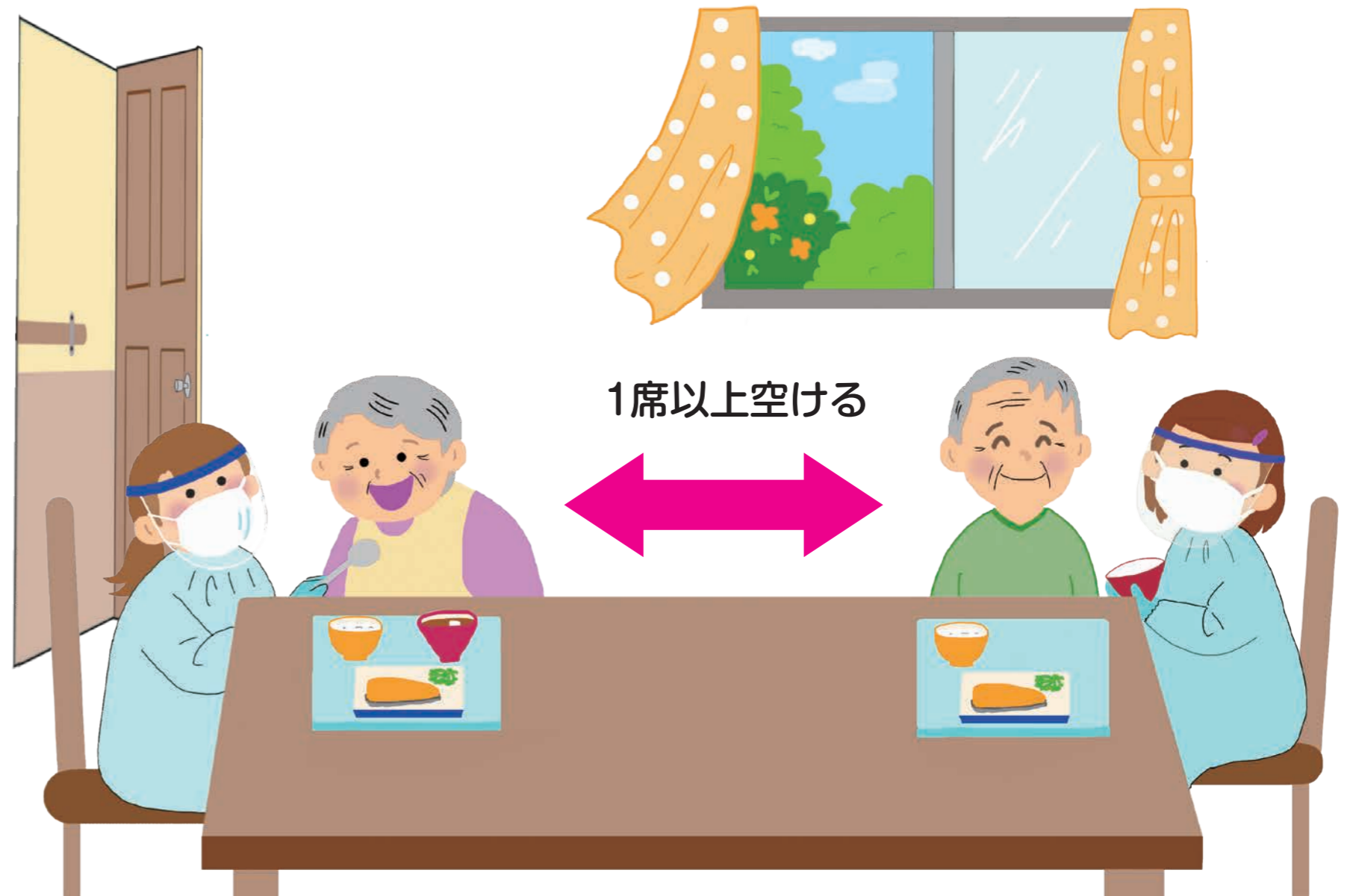
換気時は
2方向で!!



- 対面での着席は×
- 隣の人と1席以上空けましょう
- 介助や見守りが不要な方は個室・自室での食事とし、集まる人数を減らしましょう
- 熱や咳のある方は、個室など他の方と離れたところで食事を摂るようにしましょう

新型コロナウイルス感染症 感染予防 食事介助のポイント

- ✓ 介助は1対1で
- ✓ 正面ではなく側面から介助する
- ✓ フェイスシールド・マスクを着用する
- ✓ 別の人への介助をする前には、手袋・ガウンは必ず交換し手指消毒を行う



※口腔ケアを1対1で介助するときも同様です

※身体に接することがない場合は、ガウンを省略することも可能です
(本ポスターの予防策は標準予防策です)

排泄介助時のポイント

服装



使い捨て
手袋

使い捨て
ガウン
(エプロン)

※紐は必ず後ろで結び
前では結ばないこと

使い捨て手袋・使い捨てガウン(エプロン)は

- 介助する利用者ごとに交換(次の介助に移る前には必ず手指消毒を行うこと)
- 汚物が付着した場合はすぐに取り替える
- 他の利用者の介助に続けて使用することが絶対にないように徹底すること



大声を出す人の介助は
フェイスシールド

1 空気を入れかえましょう



室温に注意して
常に空気を
入れかえましょう
換気時は2方向で!!

2 手洗いをしましょう

食事前後、
目や鼻を触る
前後など
こまめに
手を洗いましょう



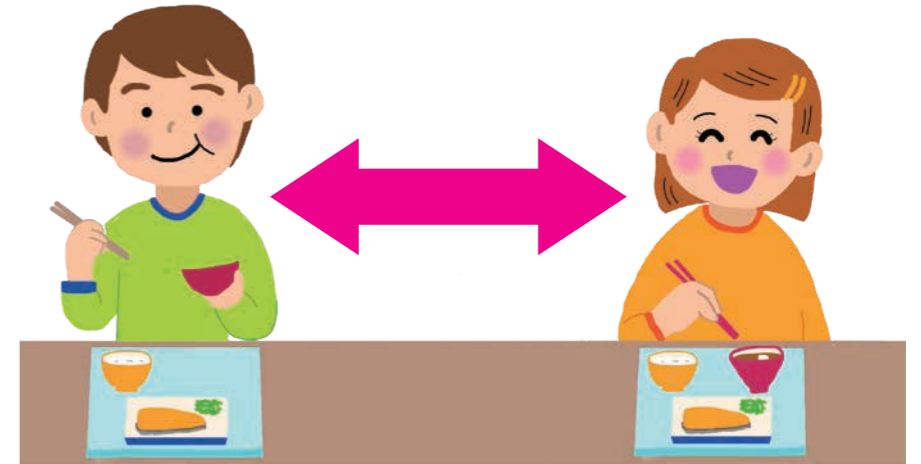
生活のポイント

新型コロナウイルス感染症から身を守る

3

“密”を避ける

食事の時は対面 ×
隣の人とは1席以上空ける



会話をする時は

4

マスクを着用 しましょう

～夏場は熱中症に注意して～



新型コロナウイルス対策として 正しい消毒液の作り方

1.使用する塩素系の液体消毒液の確認

使用している消毒液は

です。

例)ピューラックス(6%)、ミルトン(1.1%)
テキサント(6%)、ハイポライト(10%) 等

濃度 ① %

重要 必ず守らないと消毒できません!

2.塩素濃度0.05%(500ppm)に希釈し、 次亜塩素酸ナトリウム液を作る

※次亜塩素酸水とは
異なります

- 環境消毒(テーブルの表面等を消毒)
- 食器やコップ等を消毒

消毒液の濃度(%)

 ①

塩素濃度(%)

÷ 0.05 =

倍に希釈

— (例)ミルトン(1.1%)でコップを消毒(10ℓ洗い桶につけ置き)する場合 —

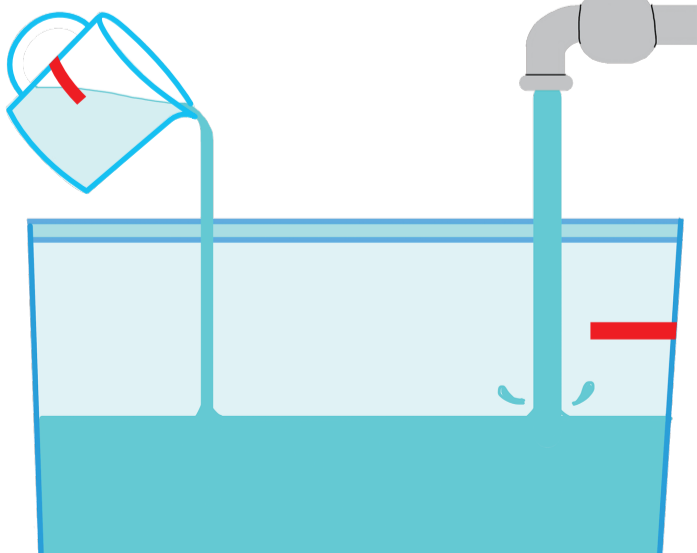
1.1 ÷ 0.05 = 22倍に希釈

10ℓの1/22量の消毒液が必要

ミルトン必要量 = 10ℓ × 1/22 = 455ml

[手順1]

消毒液を入れる455mlの
ところに赤テープ等で
目印をつける



[手順2]

10ℓの目印の赤い
テープまで水を入
れて希釈する
←10ℓのところに
赤テープ等で
目印をつける

ポイント

一度、正確に計量したものに
赤テープ等で目印をつける
と次からは短時間で消毒液
を作ることができます。

消毒後、コップ等は洗浄、テーブル
等は水拭きしましょう(作業の際は
ゴム手袋を着用してください)

新型コロナウイルス感染症陽性者が発生したら グリーンゾーン(清潔区域)とレッドゾーン(汚染区域) を明確にするゾーニングを行いましょう

赤いテープ等で区分けを見える化しましょう

グリーンゾーン (清潔区域)

レッドゾーン (汚染区域)

1 服装



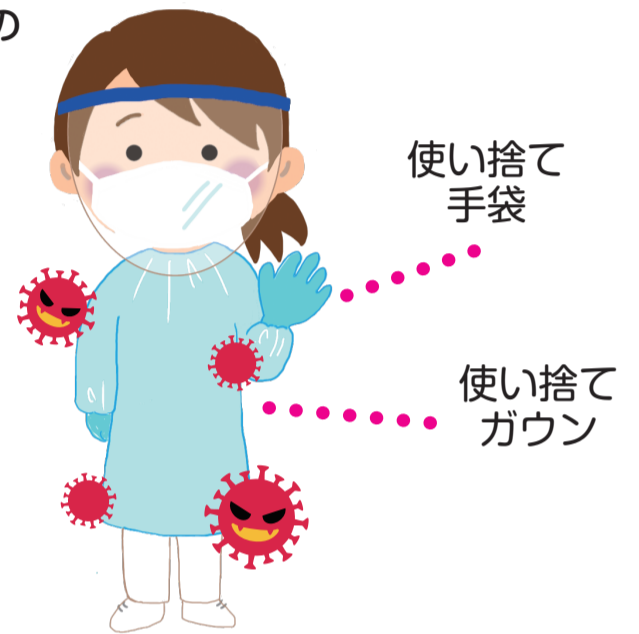
个人防护具を適切に着脱しない状態での

往来厳禁!!



脱着は決められた場所で
正しい手順で行いましょう

防護具の着用 = 清潔区域で着用
脱衣 = 汚染区域から出る際に脱衣
(脱衣場所には廃棄物容器を設置)



汚染された手袋、ガウン等は、必ず脱いだ上で清潔区域に入ること
(※着脱手順の掲示等、正しく着脱するための工夫をしましょう)

2 コップ等

洗剤で洗浄後は清潔です
洗浄前後のコップが
接触しないようにしましょう



患者様の使用済みコップ



消毒していないものはグリーンゾーンに
入れないこと!! (消毒をしていない
お盆も入れないこと!!)



グリーンゾーンへ持ち込む前に、消毒液に漬けましょう
(洗浄時のウイルスの飛び散りを防ぎます)

3 歯ブラシ・髭剃り



グリーンゾーンに入れる時は持つ
ところをアルコールで消毒して下さい

歯ブラシ、髭剃りが
交差接触しないよう
厳密に管理すること



※②③は陽性者発生の有無に関わらず、日常の感染予防対策としても重要です

※上記のポイントは、実際にクラスターが発生した施設等で専門家から指摘があった事項から見落とされがちと考えられる内容をまとめたものです